

課 題 越前水仙圃場改良試験（栽植密度の比較）

担当者 石井 大樹

1 背景・ねらい

課題（れきの撤去）に準じる。

2 試験構成及び結果

本試験は、平地栽培に適した定植方法を調べるため、栽植密度による水仙の生育状況の違いを比較・検証した。

越廼地区の試験圃場にて 10 月 24 日から翌 1 月 22 日まで生育調査を行い、収穫は 12 月 26 日から翌 1 月 22 日まで行った。収穫及び調査は JA 福井県越前水仙出荷基準に該当するもののみ実施した。

試験区	れき	堆肥	定植方法
1 区（対照区）	撤去 (地下 30cm まで)	腐葉土 1,000L/a	8 条植え（8,000 球/a）
2 区			6 条植え（5,454 球/a）
3 区			坪植え（4,800 球/a）
4 区（対照区）		バーク堆肥 600L/a	8 条植え（8,000 球/a）
5 区			6 条植え（5,454 球/a）
6 区			坪植え（4,800 球/a）
7 区（対照区）		牛糞もみがら堆肥 200 kg	8 条植え（8,000 球/a）
8 区			6 条植え（5,454 球/a）
9 区			坪植え（4,800 球/a）
10 区(対照区)		無施用	8 条植え（8,000 球/a）
11 区			6 条植え（5,454 球/a）
12 区			坪植え（4,800 球/a）

葉長について、開花球の区画では差はみられなかったが、養成球の区画では、栽植密度の高い 8 条植えの区が最も長かった。(図 1、2)花茎長についても葉長と同様の傾向だった。(図 3、4)収穫物については、差がみられるものの、一定の傾向は確認できなかった。

収穫本数はバーク堆肥の区画を除き、栽植密度と比例していた。(表 1)

以上のことから、定植方法の違いによる差がみられるものの、一定の傾向は確認できなかった。ただ、生育調査の養成球区画では、8 条植えが葉長、花茎長ともに最も長いことや、収穫調査でも同様の傾向がみられる区画があることから栽植密度が葉の伸長に影響を与える可能性があると考えられた。

3 今後の展開・活用

今回の結果では、明確な傾向を確認できず、定植方法が生育に与える影響を断定できなかった。影響の有無、強さを精査するため、試験圃場での調査を継続する。

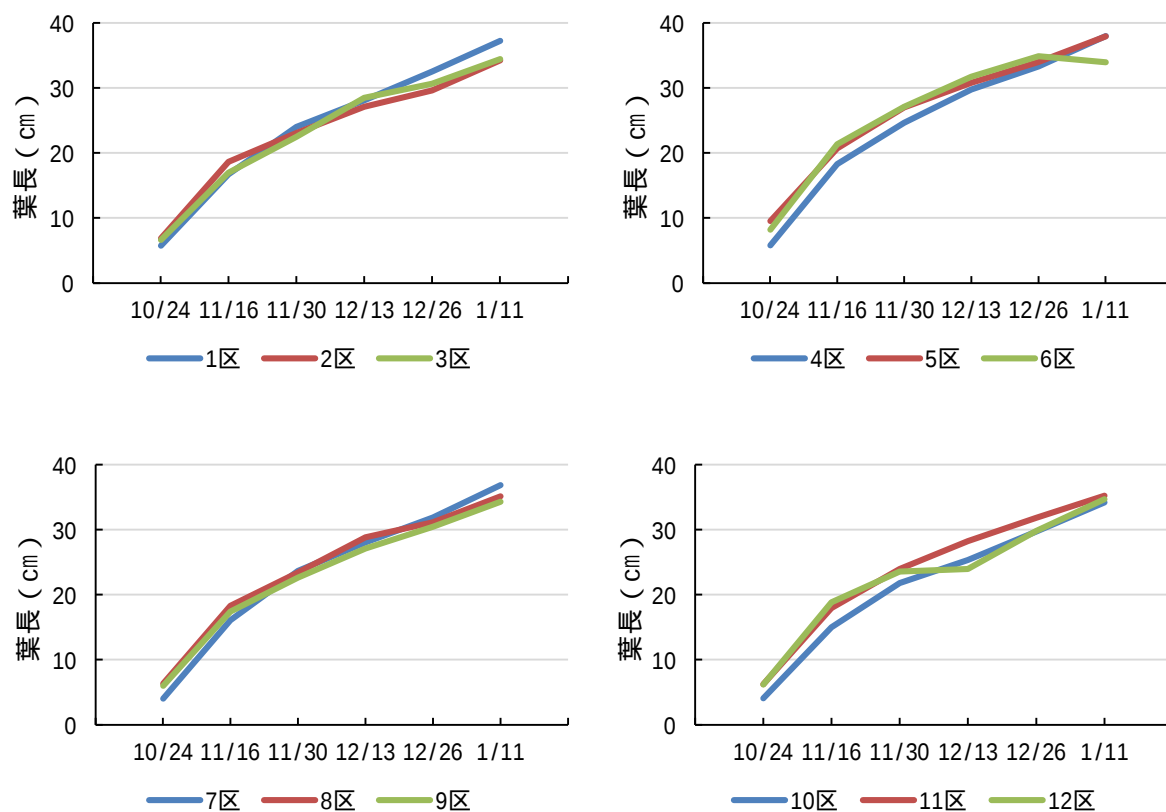
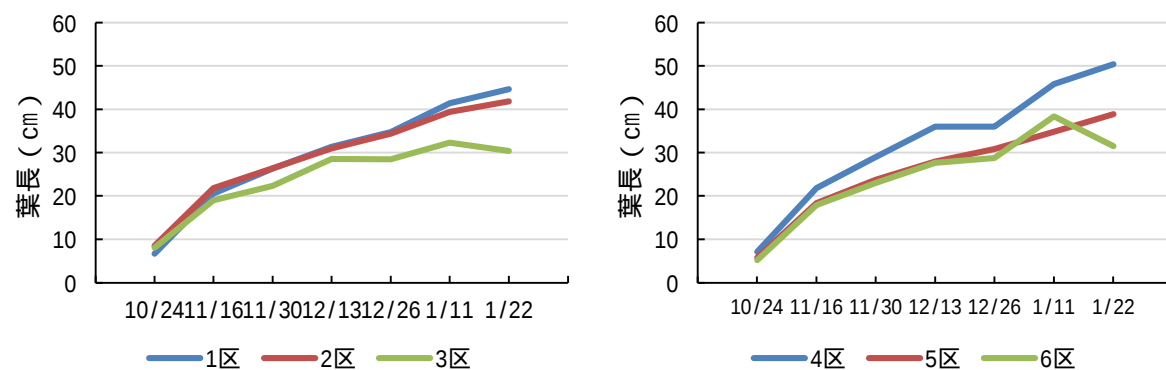


図1 葉長の推移(開花球)



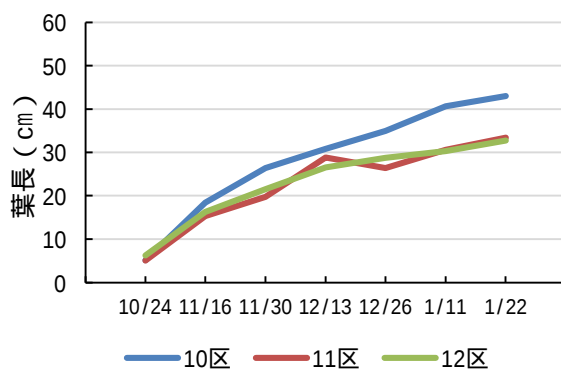
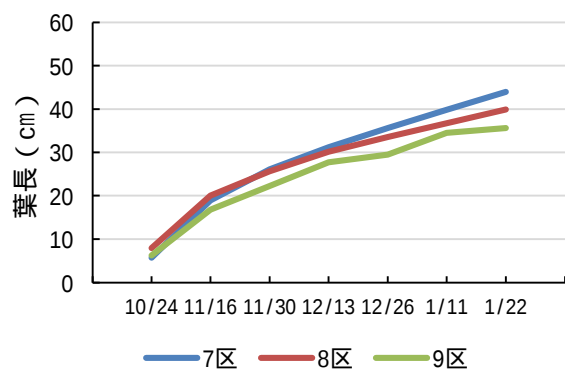
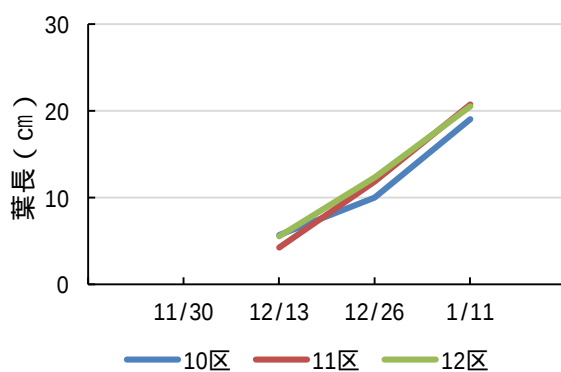
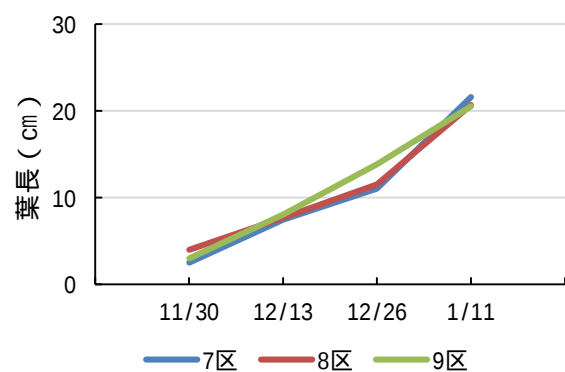
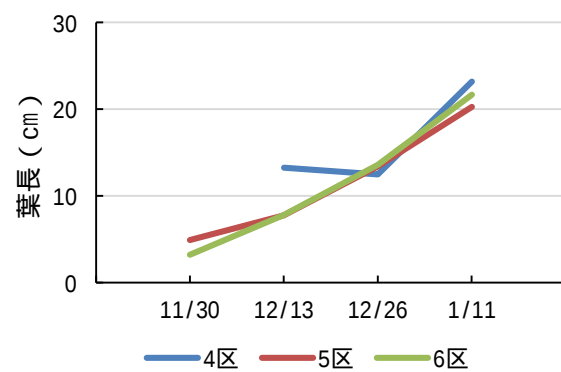
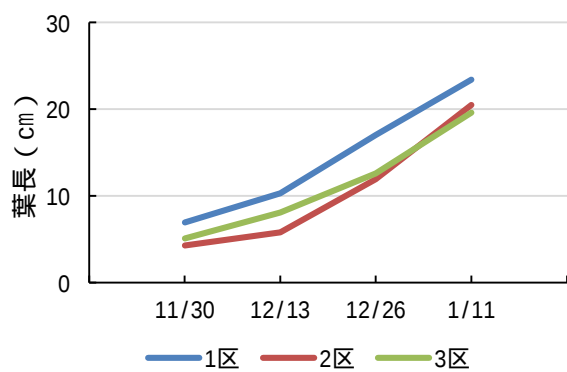
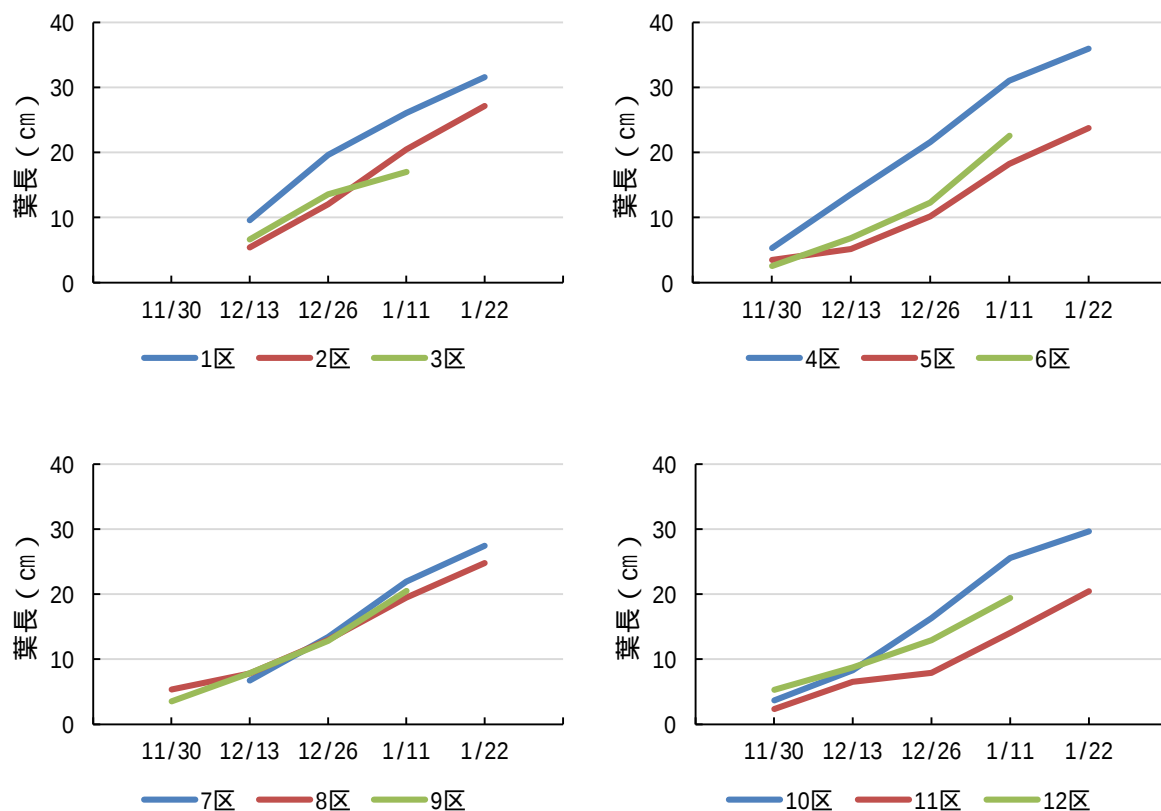


図 2 葉長の推移(養成球)



1,7 区では花茎の出現が遅く、4, 5 区は 11 月 30 日までの調査で、花茎を確認できなかった。

図 3 花茎長の推移(開花球)



1,7区では花茎の出現が遅く、4,5区は11月30日までの調査で、花茎を確認できなかった。3区、6区、9区、12区は1月22日の調査ができなかった。

図4 花茎長の推移(養成球)

表1 収穫物調査

試験区	収穫本数	定植本数	葉長	花茎長	葉数	花数	はかま長
1区	119	1,920	46.8	40.2	3.2	4.1	5.8
2区	70	1,308	47.2	37.9	3.5	4.4	5.5
3区	51	1,152	46.4	33.8	3.9	4.6	5.5
4区	62	1,920	47.5	36.4	3.9	4.1	5.4
5区	88	1,308	50.6	40.7	3.8	4.8	6.1
6区	68	1,152	50.9	37.5	4.0	4.6	5.8

試験区	収穫本数	定植本数	葉長	花茎長	葉数	花数	はかま長
7 区	125	1,920	52.2	38.1	3.9	4.0	5.6
8 区	58	1,308	50.1	33.7	4.1	4.3	5.7
9 区	48	1,152	47.0	39.8	3.2	4.6	5.7

試験区	収穫本数	定植本数	葉長	花茎長	葉数	花数	はかま長
10 区	200	1,920	49.0	36.3	4.0	4.3	5.7
11 区	147	1,308	46.0	36.8	3.6	4.6	5.3
12 区	51	1,152	45.3	37.8	3.4	4.1	4.9